

BOOKS

ロバート・A・スパソフ(著)・上畑鉄之丞(監訳)

(訳者代表)水嶋春朔・望月友美子・中山健夫

根拠に基づく健康政策のすすめ方

政策疫学の理論と実際

《評者》佐甲隆

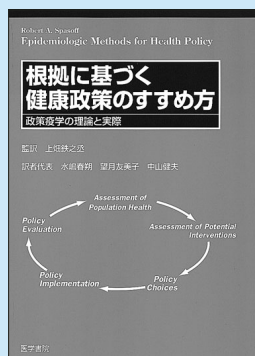
三重県松阪保健所長

疫学スキルで政策形成を楽しく!

政策とか、施策とかいう言葉に「堅苦しさ」「難しさ」を感じて、つい敬遠しがちになるのは、私だけだろうか?まして「政策評価は?」「効果効率は?」とか問いつめられるとつい黙りたくなる保健師さんも少なくないだろう。現場の活動が、うまく政策につながらないもどかしさは何に由来するのか?「よかれ」と願う思いや、「こうありたい」という熱意だけでなく、政策決定者を動かす説得力はどこから生まれてくるのか?この本は、そのような問いに1つの答えを与えている。

本書は、科学的な健康政策形成に疫学がどのような役割を果たせるかを示したものであり、エビデンスに裏付けられた保健活動のマネジメントの在り方について、政策疫学の立場から論じたものでもある。もちろん高度な内容の部分もあり、さらりと読める本ではないが、問題意識のある読者には十分な手応えを感じさせるであろう。

まず、健康政策の考え方に始まり、政策サイクルの枠組みに政策疫学を絡めることで、政策の価値を高める方法が示されている。政策形成プロセスから、倫理や法的問題、メディ



●A5判 296 ページ

定価: 3,675 円(本体 3,500 円)

医学書院 (Tel.03-3817-5657)

アを含めたコミュニケーションスキルにまで言及され、興味深い。さらに、疫学的な効果判定・政策評価ツールとしての健康寿命や健康調整平均余命などの指標がBoxでの事例とともに詳述され、とても参考になる。健康データの収集・分析も、健康の概念から情報システムまでエビデンスとしての健康情報管理の基本が押さえられる。

続いて、政策サイクルの各段階のアクセスメント手法が論じられる。政策の選択、実施、評価の項では、優先度の決定や目標設定の方法など、現実的な計画策定評価に悩む保健師さんに、重要なヒントを与えてくれるはずだ。

政策論とは、パズルのようなものだ。難解で解けなければつまらない。解けはじめると一気にスリルと興奮のつぼにはまっていく。何ごととも「わかってくと」面白い。政策疫学が、少しずつでもわかりかけてくると政策形成が楽しくなる。もちろん、実際の政策形成に必要なナレッジは、疫学だけではなく、人びととの対話とコミュニケーションからも生まれうるものだ。住民主体の活動計画づくりからも、地域にふさわしい分権的な健康政策が生み出されていく。だからこそ、まず基本的な政策疫学スキルを学ぶことで、説得力を身につけたい。

本庁に働く保健師さんにとっては、頼りになる座右の書となろう。が、政策は本庁だけで形成されるものではない。ストリートレベルの政策形成と言われるように、現場で、政策を生きたものに変え、地域の思いをさらに政策化するために、熱心に住民と向き合っている保健師さんにこそ読んで欲しい。そして、保健所長と保健師がこのような本を読み合いながら、地域の政策をともに考えることができればどんなにすばらしいだろうかとも思った。